

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

| | |
|-----|-----|
| 団体名 | 熊本市 |
|-----|-----|

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

① 都道府県・政令指定都市からの指定の有無

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

指定の有無 有・無

指定の内容

② 都道府県・政令指定都市との具体的な連携

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

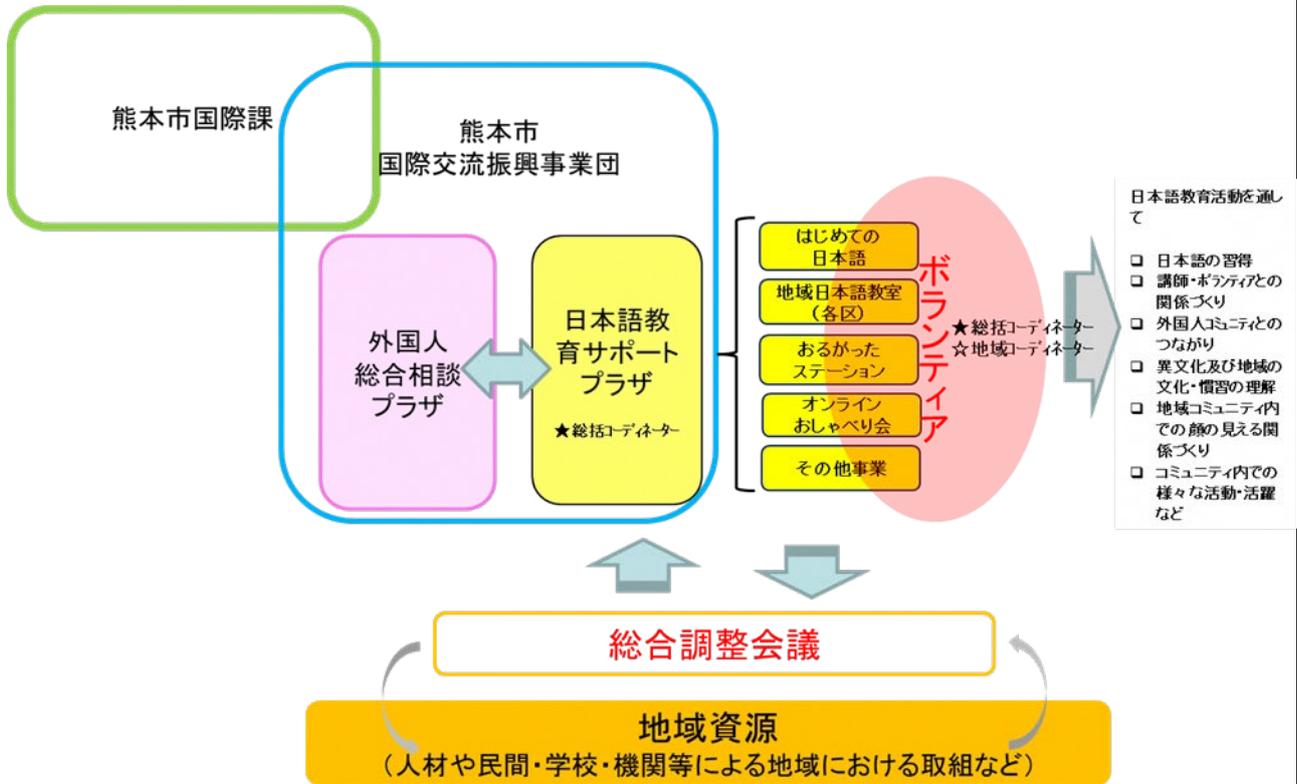
2 事業の概要

(1) 全体概要

| | |
|--|------------------------------|
| ① 事業の名称 | 熊本市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 |
| ② 目的等 | |
| 1 目的 | |
| (1) 外国人住民が生活に必要な日本語を習得するための支援 多様化する外国人住民は、国籍、在留資格、生活スタイルにも対応する日本語学習情報や機会の提供ができる体制づくりを行う。また、日本人住民との交流や相互理解をとおして、外国人住民が基本的な生活ができる程度の日本語能力を習得できるよう、地域日本語教室を運営する。 | |
| (2) 日本語を通して外国人住民と日本人住民が支え合う関係づくり 地域に住む日本人住民も「やさしい日本語」を活用することで、外国人住民と日本語で意思疎通を図りながら地域での活動にも積極的に参加することが可能となる体制づくりを行う。 | |
| 上記を通じて、住民一人ひとりが活躍できる多文化共生の地域づくりを行い、熊本市国際戦略にも掲げる「誰もが住みやすい、訪れやすい、活動しやすいまち」となることを目指す。 | |

2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

【現在の状況：図示も可】



【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

上図の「熊本市国際交流振興事業団」部分に追記

熊本にほんご教育プラザの役割（概略図）

：令和3年11月に熊本市国際交流会館2階に設置。以下のとおり、熊本市国際戦略に基づき、市域の地域日本語教育の体制づくりを推進するもの。

熊本市国際戦略
「世界に認められる『上質な生活都市』」の実現
基本施策4 多文化共生社会の推進
②誰かが住みやすい、訪れやすい、活動しやすい
まちとなるための外国人に対する支援の充実
○外国人・日本人が日頃からお互いに交流、
理解を促進できる拠点となる日本語
教室を地域毎に設置していきます。

日本語教育推進事業
○日本語教育に関する情報収集・配信
○日本語教育事業の企画・実施
○地域日本語教室の運営
○ライフスタイルにあった日本語学習情報・機会の提供

○外国人住民への生活情報等の収集・配信
○多言語での外国人住民ライフ・サポートの実施
○専門相談の開催
○他都市の相談プラザ等との情報共有
○専門機関・団体との連携
○外国人相談対応のネットワーク



国際交流会館=多文化共生「外国人住民ライフサポート」の拠点

熊本市外国人総合相談プラザ
コーディネーター 2人
(日本語・英語対応者)

相互に連携し
情報共有

熊本にほんご教育プラザ
総括コーディネーター 2人
(日本語教育有資格者)



外国人住民の生活支援(多言語相談)と
コミュニケーション支援(日本教育)の
ワンストップ・サポート窓口

調査・研究・ネットワーク構築
○やさしい日本語をキーワードとした地域づくりのための調査・研究
○大学等研究機関との連携
○地域(自治会)との連携・協力
○日本語教育関係ネットワーク構築
○日本語教育人材育成

(2) 令和4年度事業の概要

| | |
|---|---------------------------|
| ①事業の期間 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日（12カ月間） |
| ②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要） | |
| <p>令和2年度は地域日本語教室を全区で実施し、総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターを配置した。総合調整会議を開催し、事業説明を行うとともに、各校区自治協議会宛に多文化共生に関するアンケートを実施した。</p> <p>令和3年度は体制を充実させ連携を強化するため、熊本にほんご教育プラザを設置し、地域日本語教育コーディネーター会議を開催した。また新規ボランティアの募集および研修を実施し、不足していたボランティアの新規確保を行った。</p> | |
| ③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要） | |
| <p>令和2年度（1年目）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本市内で唯一の地域日本語教室空白地域であった南区に地域日本語教室を開設し、全5区で地域日本語教室の運営体制を構築した。 ・総括コーディネーター2名および地域日本語教育コーディネーター3名を配置し、日本語教育情報の収集、配信や教室間の情報交換、情報共有等の連携を強化した。 ・有識者による総合調整会議を立ち上げ、本事業に関する意見交換や助言をいただいた。 ・自治会関係者や在住外国人向けに多文化共生に関するアンケート調査を実施し、自治会等が抱える課題把握、外国人住民への意識調査を行った。 ・オンライン教材をインターネット上で閲覧できるようホームページにアップした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民数に対し、地域日本語教室への参加者数が少ないと思われるため、ニーズの把握が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から、学習者やボランティアともに参加が減少し、会場が使用できない期間が多かった。使用できない期間が多かった。 <p>令和3年度（2年目）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熊本にほんご教育プラザ」を設置し、熊本市外国人総合相談プラザと連携し、在住外国人のライフスタイル、日本語学習ニーズに応じた細やかな日本語学習支援ができる体制を整えた。 ・地域日本語教育コーディネーター会議を年2回開催し、地域日本語教室の抱える課題把握と改善を行った。 ・新規生活日本語支援ボランティアの募集と、養成講座を開催し、14人が新規ボランティアとして活動を開始した。 ・各地域日本語教室に通っている学習者やボランティアに呼びかけ、オンラインにほんごおしゃべり会を開催した。 ・各教室合同の学習発表会を開催し、活動報告やスピーチ発表を行った。 <p>【課題】</p> | |

新型コロナウイルス感染症の影響で学習の機会が減るなか、オンラインおしゃべり会を開催したが、学習者、ボランティア共にオンライン環境が十分ではなかったり、オンラインツールに慣れない状況にあり、参加は一部に留まった。

④令和4年度の目標

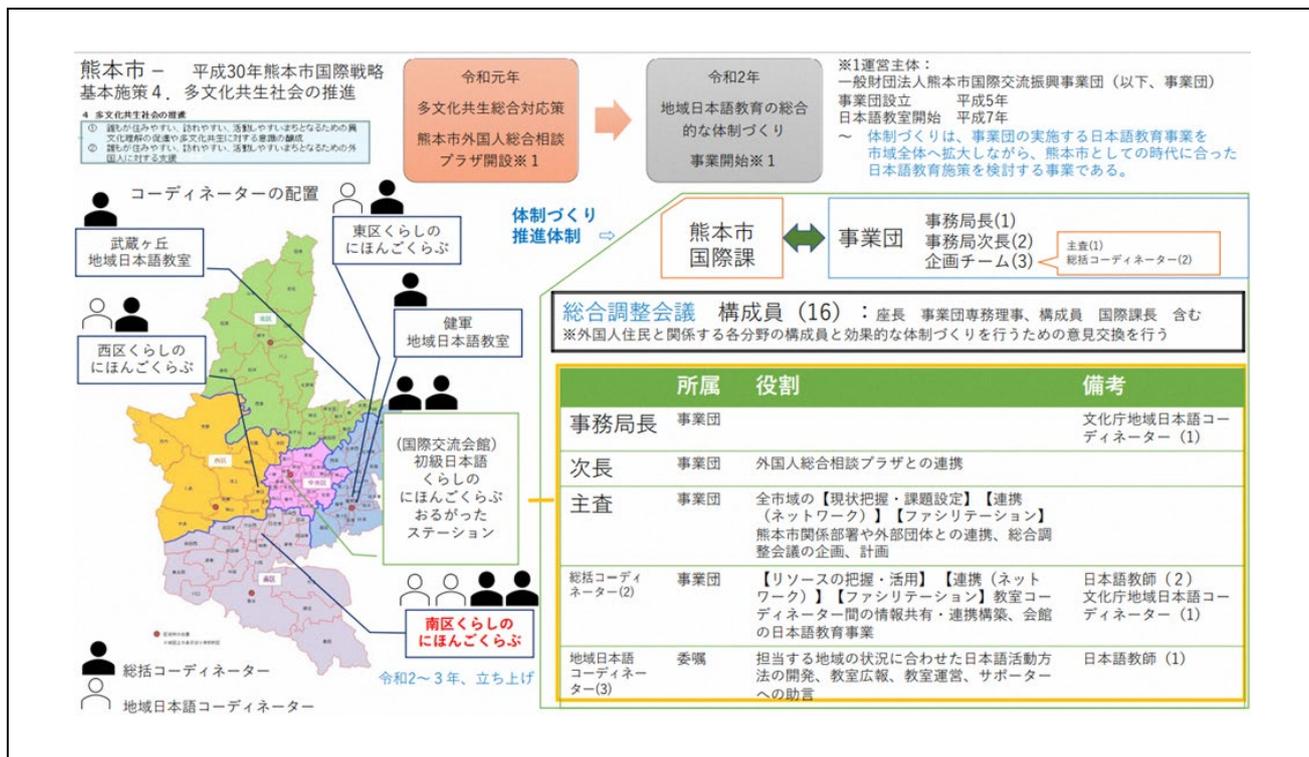
中間振り返りを実施し、地域とのつながり作りの強化を行う。

⑤令和4年度の主な取組内容

- ・熊本にほんご教育プラザを中心に大学等との連携強化し、日本語教育等を専攻する大学生をインターンとして受け入れ地域日本語教育を学ぶ学生に実践の場を提供する。
- ・地域住民や地域自治会、外国人労働者の受入元企業の日本人職員等を対象に「やさしい日本語」講座を開催し、地域共通言語としての「やさしい日本語」普及啓発に努める。
- ・地域日本語教室で活動されているボランティア・サポーター向けに教室デザイン、運営・管理ノウハウやコーディネート業務を学ぶスキルアップ研修を開催する。
- ・中間振り返りの実施と事業の見直しを行う。
- ・「やさしい日本語」をキーワードとした地域づくりを進めるため、地域における連携について検討する。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制 (図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



| 《事業の中核メンバー》 | | | | |
|-------------|--------|--------------|------------|----------------|
| | 氏名 | 所属 | 職名 | 役割 |
| 1 | 木村 あゆみ | 熊本市国際課 | 主査 | 連絡調整担当 |
| 2 | 勝谷 知美 | 熊本市国際交流振興事業団 | 事務局長 | 全体調整 |
| 3 | 吉田 直 | 熊本市国際交流振興事業団 | 主査 | 全体調整 |
| 4 | 楊 紗季 | 熊本市国際交流振興事業団 | 総括コーディネーター | 全体調整 (R4.9月まで) |
| 5 | 村島 未弥 | 熊本市国際交流振興事業団 | 総括コーディネーター | 全体調整 |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

熊本市外国人総合相談プラザ、黒髪小学校（熊本市日本語教育センター校）、熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会、自治会、大学、外国人コミュニティなど、外国人と関わりのある団体と連携・協力し、円滑に日本語教室を運営した。また大学と連携協力し、日本語教育に携わる学生達をインターン等で受入れ、日本語教育人材育成の一助とした。

4 令和4年度の実施内容

(1) 実施内容

| 1. 広域での総合的な体制づくり | | | | |
|------------------|--------|-----------------|--------------------|---|
| 【必須項目】 | | | | |
| (取組①) 総合調整会議の設置 | | | | |
| ①構成員 | | | | |
| | 氏名 | 所属 | 職名 | 役割 |
| 1 | 秋葉 多佳子 | 熊本県立大学 | 文学部日本語 日本文学科准教授 | 日本語教育としての取り組み 評価、大学との連携（日本語教育を研究している学生との共同研究）、助言 |
| 2 | 岩瀬 修 | 熊本商工会議所 | 経営支援部次長 国際室長 | 外国人労働者受け入れる商工 分野のニーズ、動向の事業への 反映、助言 |
| 3 | 金子 秀聡 | 株式会社 熊本日日新聞社 | 編集局編集専門委員 | マスコミ関係への日本語教育 関連情報の提供・発信、マスコミ としての助言 |

| | | | | |
|----|---------------|-----------------------------------|--------------------------|---|
| 4 | 柴田 治穂 | 黒髪小学校 | 校長 | 熊本市の日本語教育センター校として支援・情報提供、助言 |
| 5 | 園田 雅淑 | 熊本県中小企業団体中央会 | 連携支援部工業振興課課長補佐 | 技能実習、特定技能など外国人労働者のニーズ、管理団体におけるニーズの情報提供、助言 |
| 6 | 竹村 明子 | NPO 法人外国から来た子ども支援ネット | 代表 | 日本語が必要な児童・生徒支援（民間）関連の情報提供、助言 |
| 7 | 田代 クリスティーナ | 熊本外国人妻の会 | 会長 | 外国人住民の視点からの意見・提案、助言 |
| 8 | 鳥崎 一郎 | 大江校区社会福祉協議会 熊本市全校区社会福祉協議会連絡協議会 | 会長/事務局長 | 校区、自治会における日本語教育体制の広がりに関する助言 |
| 9 | 野口 高裕 | 株式会社マイスティア | 新事業創造室 マネージャー | 日本での就労を目指す外国人住民のニーズ把握、情報提供、助言 |
| 10 | 畠山 真一 | 尚綱大学 | 文化コミュニケーション学科教授 | 日本語教育としての取り組み評価、大学との連携（日本語教育を研究している学生との共同研究）、助言 |
| 11 | カーク・マスデン | 熊本学園大学 | 経済学部准教授 kumamoto-I 代表 | 外国人住民の視点から意見・提案、助言 |
| 12 | 道本 ゆう子 | 熊本大学 | 非常勤講師 地域日本語教育コーディネーター | 日本語教育としての取り組み評価、やさしい日本語の普及・拡大、助言 |
| 13 | 宮本 茂生 | 熊本大学 | 留学生就職推進室 特定事業教員 | 日本語教育としての取り組み評価、留学生の日本語教育ニーズ等情報提供、助言 |
| 14 | 福田 衣都子 | 熊本市教育委員会 指導課 | 課長 | 日本語が必要な児童・生徒支援（教育委員会）等情報提供、助言 |

②実施結果

| | |
|--------------|---|
| 実施回数 | 2回 |
| 実施 スケジュール | 第1回：令和4年12月20日（火）14：00～16：00 第2回：令和5年3月15日（水）14：00～16：00 |
| 主な検討項目 | ・中間振り返り報告 ・令和4年度日本語教育関連事業報告 |

| | |
|--|-------------|
| | ・令和5年度事業（案） |
| （取組②－1）総括コーディネーターの配置 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2名を熊本にほんご教育プラザに配置した。 ・地域日本語教室の運営管理および本事業の実施にかかる業務全般を担った。 ・熊本にほんご教育プラザを開設・運営し、多様化する外国人住民のニーズに合わせた生活に必要な日本語習得機会や、日本語学習方法等の情報提供を行った。 ・地域日本語教育コーディネーターと随時、情報交換を行い、地域日本語教室等の現状把握と課題解決、効率的・効果的な地域日本語教室運営に努めた。 ・総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターが参加し、地域日本語教室の現状や情報共有、課題解決などを話し合う地域日本語教室コーディネーター会議を年2回開催した。 | |
| （取組②－2）地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組 | |
| <p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入し、実施内容を記載してください</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域日本語教育コーディネーターを3名配置し、日本語教室のコーディネートや日本語教室の広報業務を行った。 ・地域日本語教室コーディネーター会議を下記のとおり2回開催し、各区地域日本語教室間の情報交換や各地域日本語教室の課題解決に向けた協議などを行った。 <p>第1回目</p> <p>開催日時：令和4年7月2日（土）10：00～12：00</p> <p>開催場所：熊本市国際交流会館 2階ミーティング室</p> <p>議題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の振り返り及び現状報告、各日本語教室の実施状況 ・今年度の日本語教育関係事業計画 ・南区くらしのにほんご会場変更等について <p>第2回目</p> <p>開催日時：令和5年3月30日（木）10：00～12：00</p> <p>開催場所：熊本市国際交流会館 2階ミーティング室</p> <p>議題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の振り返り ・令和5年度の日本語教育関係事業計画 | |
| （取組②－3）調査・推進計画策定コーディネーターの配置 | |

| |
|---|
| 【取組なし】 |
| 【重点項目】 |
| (取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組 |
| 【取組なし】 |
| (取組④) 市区町村への意識啓発のための取組 |
| <p>地域向けやさしい日本語研修の実施</p> <p>地域で外国人住民と接する機会が多い地域自治会や民生委員の方々向けに、「やさしい日本語」の研修会を開催し、日本語での交流につなげた。</p> <p>大江校区民生委員、町内会長等を対象に「やさしい日本語」講座を実施した。</p> <p>開催日時：令和5年3月2日（木）</p> <p>午前 10 時～午前 11 時 30 分</p> <p>開催場所：大江校区公民館 2 階ホール</p> <p>参加者数：7 人（大江校区民生委員・町内会長）</p> <p>講師：道本 ゆう子 氏</p> |
| (取組⑤) 日本語教育人材に対する研修 |
| <p>講座名：全教室合同生活日本語支援ボランティア研修会</p> <p>開催日時：令和4年6月26日（日）14：00～16：00</p> <p>開催場所：熊本市国際交流会館 2階交流ラウンジ</p> <p>内容：【前半】にほんごくらぶの現状について 【後半】アンコンシャス・バイアスについて</p> <p>講師：【前半】事業団職員 【後半】泉 千草 氏（日本語講師）</p> <p>参加者数：48 人</p> <p>講座名：生活日本語支援ボランティアスキルアップ研修会</p> <p>開催日時：令和4年9月3日（土）・9月17日（土）・10月1日（土）・10月15日（土）</p> <p>10：00～12：00</p> <p>開催場所：熊本市国際交流会館 2階ミーティング室・2階交流ラウンジ</p> <p>講師：事業団職員・地域日本語教室コーディネーター</p> <p>参加者数：10 人</p> |

| | | | |
|--|---|---------------|-------|
| <p>講座名：多文化共生シンポジウム</p> <p>開催日時：令和5年2月19日（日）14：00～16：30</p> <p>開催場所：熊本市国際交流会館 7階ホール</p> <p>内容：【前半】外国ルーツの子どもの教育について考える（基調講演）</p> <p>【後半】熊本市に於ける外国ルーツの子どもの教育サポート事例</p> <p>講師：【前半】金 光敏 氏 （社会教育士/常磐会短期大学兼任講師/大阪樟蔭女子大学非常勤講師）</p> <p>【後半】福田 衣都子 氏（熊本市教育委員会指導課 課長）</p> <p>竹村 朋子 氏（NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと 代表）</p> <p>秋葉 多佳子 氏（熊本県立大学文学部准教授）</p> <p>参加者数：87人（内にほんごボランティア31人）</p> | | | |
| <p>（取組⑥）地域日本語教育の実施</p> <p>実施するものに○ <input type="radio"/> 【○】都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育</p> | | | |
| 実施箇所数 | 10 か所 | 受講者数 (実人数) | 311 人 |
| 活動1 | <p>【名称】はじめてのほんご【既設】</p> <p>【目標】日本語を学んだことがない外国人住民が初級文法を日本語教師から学び、生活に必要な日本語を習得するとともに、地域日本語教室への橋渡しを行う。</p> <p>【実施回数】 66回/年（1回 2時間）</p> <p>【受講者数】 12人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、市政だより、各日本語教室等</p> <p>【内容】クラス形式で、1日2時間1課ずつ週3回学ぶコース。平日の午前中だけの開催で、子育て中の外国人住民も参加しやすいコースとした。教えるのは、有資格者の日本語教師のみで、初級文法を教えるとともに、生活に必要な日本語も学べる内容とした。基本的に授業は直接法で行い、参加者の学習レベルや在留資格・国籍等にかかわらず、誰でも楽しく日本語を学べる入口となるような講座とした。</p> <p>【開始した月】 令和4年7月～</p> <p>【講師】6人（うち、日本語教師 6人）</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> | | |
| 活動2 | <p>【名称】くらしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【目標】市民ボランティアとともに生活に必要な日本語を学ぶ。外国人住民が日本人や地域社会とつながる場所、“居場所づくり”も目的とし、多文化共生社会の拠点となる教室を運営した。</p> | | |

| | |
|------|---|
| | <p>【実施回数】 149 回/年（1 回 2 時間）</p> <p>【受講者数】 169 人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館 2F 交流ラウンジ</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook 等</p> <p>【内容】 ボランティアと 1 対 1 又はグループで生活に必要な日本語を学ぶ会話学習を行った。ボランティアには、学習者のニーズに合わせペア（グループ）ごとに活動内容を考えてもらった。会話を通して日本の文化や習慣を学び、日本での生活をより豊かにできるよう、「熊本市外国人総合相談プラザ」と連携して支援を行った。</p> <p>【ボランティア】 71 人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無： なし</p> |
| 活動 3 | <p>【名称】 東区健軍地域日本語教室【既設】</p> <p>【実施回数】 17 回/年（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 2 人</p> <p>【実施場所】 健軍商店街内「よって館ね」</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook 等</p> <p>【内容】 ボランティアと 1 対 1 もしくはグループで生活に必要な日本語を学ぶ会話学習を行った。ボランティアには、学習者のニーズに合わせペア（グループ）ごとに活動内容を考えてもらい、学習者が持参したテキストやレアリア（チラシ、配布物）などを使って学習を行った。</p> <p>【ボランティア】 2 人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無： なし</p> |
| 活動 4 | <p>【名称】 東区くらしのにはんごくらぶ【既設】</p> <p>【実施回数】 19 回/年（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 14 人</p> <p>【実施場所】 東部公民館、熊本市動植物園、健軍神社</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook 等</p> <p>【内容】 ボランティアである日本語交流サポーターとの会話を通して、日本語を学べる場を提供した。東区に住む外国人を対象に、生活に密着したテーマで地域日本語教室コーディネーターがハンドアウトを作成、写真やパンフレットなど資料を用いた対話型の学習活動を行った。またテーマに合わせた市販テキストの活用や日本文化体験等、参加者自身が体験することにより生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設けた。日本文化体験や季節の行事開催に際して、日本語で解説した資料を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設けた。活動後は参加者に記録シートや他の参加者へのメッセージを書いてもらうことで、日本語の読み書き力を養う取組を行った。文化体験として健軍神社へ初詣を行った。</p> <p>【ボランティア】 7 人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無： なし</p> |

| | |
|------|---|
| 活動 5 | <p>【名称】西区くらしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【実施回数】 23 回/年（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 13 人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館 2 階交流ラウンジ、高橋稲荷神社</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】ボランティアである日本語交流サポーターと会話を通して日本語を学べる場を提供した。西区に住む外国人を対象に、生活に密着した内容でコミュニケーションに重点をおいた日本語学習を行った。レクリエーションや文化体験等、学習者が楽しんで参加できる内容を企画した。日本文化（初詣など）を参加者自身が体験することで、生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設けた。日本文化体験や季節の行事開催に際して、日本語で解説した資料を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設けた。活動後は参加者に記録シートを書いてもらうことで、日本語の読み書きの力を養う取組を行った。</p> <p>【ボランティア】5 人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p> |
| 活動 6 | <p>【名称】南区くらしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【実施回数】 21 回/年（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 15 人</p> <p>【実施場所】アスパル富合・南部公民館（令和 4 年 9 月より）河尻神宮他</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】ボランティアである日本語交流サポーターと会話を通して日本語を学べる場を提供した。南区に住む外国人を対象に、生活に密着した内容でコミュニケーションに重点をおいた日本語学習を行った。レクリエーションや文化体験も取り入れ、楽しんで参加できる内容を企画した。日本文化体験や季節の行事開催に際して、日本語で解説した資料を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設けた。活動後は参加者に記録シートを書いてもらうことで、日本語の読み書きの力を養った。</p> <p>教室活動については、コーディネーターが各回のプログラムや教材を作成し、活動の進行やサポーターへのアドバイスなどを行った。</p> <p>サポーター及び学習者へアンケート調査を行い、会場を市内中心部よりで公共交通機関の利便性も高い南部公民館へ変更した。</p> <p>【ボランティア】 7 人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p> |
| 活動 7 | <p>【名称】北区武蔵ヶ丘地域日本語教室【既設】</p> <p>【実施回数】 29 回/年（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 14 人</p> <p>【実施場所】菊陽町西部町民センター</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】北区に住む外国人を対象に、ボランティアによる日本語学習支援を行った。ペア</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>やグループごとに、外国人のニーズに合わせて学習活動を行った。日本文化体験等も取り入れ、実体験を通じた日本語のコミュニケーション能力の向上を図った。自治体の出前講座等を活用し、交通安全の情報や、生活に必要な情報や日本語を学ぶ機会を提供した。</p> <p>運営は、外国人参加者リーダーとボランティア代表と協力して行った。</p> <p>【ボランティア】19人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> |
| 活動8 | <p>【名称】オンラインおしゃべり会【既設】</p> <p>【実施回数】毎月第2・第4土曜日の18:30-20:00（1時間30分）</p> <p>【受講者数】22人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館内よりZoomで発信、参加者は自宅から参加。</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】その日のトピックについて少人数に分かれ、会話を通して日本語を学ぶ。(zoomのブレイクアウトルームを使用)大学生、総括コーディネーター等の協力を得て実施した。</p> <p>【講師】ボランティア13人</p> <p>【関係機関との連携】外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、尚綱大学</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> |
| 活動9 | <p>【名称】おるがったステーション（外国ルーツの子ども居場所づくり）【既設】</p> <p>【実施回数】毎週日曜日（4時間）</p> <p>【受講者数】28人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした日本語支援及び子どもたちの居場所づくり。日本語能力の問題から、小学校、中学校の授業についていけない子どもたちが集まり、教職経験のあるボランティア、大学生ボランティアによる日本語指導を行った。来日直後の子どもたちには、日本語の初期指導を行い、初期指導が終了している子どもたちには、生活言語の指導を行った。</p> <p>子どもたちにとって教科書に出てくる日本語は普段使用しない表現もあり、生活言語とのギャップに困惑する可能性がある。そこで、生活言語を主体としつつ、教科書に出てくる言い回しの異なる日本語と関連させて教えることで理解を深めた。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【講師】ボランティア11人</p> <p>【関係機関との連携】熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> |

| | |
|--|--|
| 活動 10 | <p>【名称】おるがったキッズ（外国ルーツの子ども居場所づくり）【新設】</p> <p>【実施回数】毎月第4日曜日（2時間）※令和4年5月に新設</p> <p>【受講者数】22人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】外国にルーツを持つ就学前児童を対象とした生活支援、日本語支援及び子どもたちの居場所づくり。熊本県立大学、NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもとと協力し、日本教授法を学ぶ学生ボランティアによる日本語指導を行った。工作等を取り入れ、楽しく日本での生活に必要な日本語を学ぶことができる工夫を行った。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【講師】 ボランティア 11人</p> <p>【関係機関との連携】熊本県立大学・NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> |
| (取組⑦～⑭) その他の取組 | |
| <p>(取組⑦)</p> <p>【名称】地域向けやさしい日本語研修</p> <p>【開催日時】令和5年3月2日（木）午前10時～11時30分</p> <p>【受講者数】7人</p> <p>【実施場所】大江校区公民館</p> <p>【対象】地域自治会関係者・民生委員・地域住民</p> <p>【講師】道本 ゆう子 氏</p> <p>【内容】外国人住民と接する機会が多い地域自治会関係者や、民生委員の方々を対象に「やさしい日本語」の概念や活用方法を学ぶ「やさしい日本語」研修会を開催した。</p> | |
| 2. 市区町村の日本語教育の取組への支援 | |
| (取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育 | |
| 【取組なし】 | |
| (取組②) 取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育 | |
| 【取組なし】 | |
| 3. 「日本語教育の推進に関する法律」第11条に基づく基本的な方針の作成 | |
| (取組①) 基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置 | |
| 【委員会の実施結果】【取組なし】 | |
| 実施回数 | |

| | | | | |
|--|----|----|----|----|
| 実施 スケジュール | | | | |
| 主な検討項目 | | | | |
| 【設置する委員会は、条例に基づく委員会か】 | | | | |
| 【 】 条例に基づく 【 】 それ以外（※どちらか○で選択） | | | | |
| | 氏名 | 所属 | 職名 | 役割 |
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| （取組②）委員会における審議の基礎資料とするための調査実施 | | | | |
| 【取組なし】 | | | | |
| （取組③）委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成 | | | | |
| 【取組なし】 | | | | |

5 主要な取組の実施状況

| | |
|--------|------------------------------|
| 令和4年4月 | 中間振り返り開始・オンラインおしゃべり会ボランティア募集 |
| 5月 | 長期インターン生受入れ開始・おるがったキッズ開始 |
| 6月 | 全教室合同生活日本語支援ボランティア研修会開催 |

| | |
|--------|--|
| 7月 | 第1回地域日本語教育コーディネーター会議開催・第1回はじめてのにはんご開催 |
| 8月 | |
| 9月 | 生活日本語支援ボランティアスキルアップ研修会開催 |
| 10月 | 第2回はじめてのにはんご開催 |
| 11月 | |
| 12月 | 第1回総合調整会議開催 |
| 令和5年1月 | 第3回はじめてのにはんご開催 |
| 2月 | 多文化共生シンポジウム |
| 3月 | 大江校区「やさしい日本語」講座開催・第2回総合調整会議開催・第2回地域日本語教育コーディネーター会議開催 |

6 評価と検証

| |
|--|
| 1. 令和4年度の計画の評価と検証方法 |
| <p>【令和4年度の目標】（再掲）</p> <p>中間振り返りを実施し、地域とのつながり作りの強化を行う。</p> |
| <p>【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本にはんご教育プラザを中心に大学等との連携強化し、日本語教育等を専攻する大学生をインターンとして受入れ地域日本語教育を学ぶ学生に実践の場を提供する。 ・地域住民や地域自治会、外国人労働者の受入元企業の日本人職員等を対象に「やさしい日本語」講座を開催し、地域共通言語としての「やさしい日本語」普及啓発に努める。 ・地域日本語教室で活動されているボランティア、サポーター向けに教室デザイン、運営・管理ノウハウやコーディネート業務を学ぶスキルアップ研修を開催する。 ・中間振り返りの実施と事業の見直しを行う。 ・「やさしい日本語」をキーワードとした地域づくりを進めるため、地域における連携について検討する。 <p>【指標1：定量 評価目標】</p> <p>日本語支援事業参加者（学習者）数</p> <p>○目標値 延べ5,000人（令和2年度 1,416人）</p> <p>○実績値 令和4年度 2,372人</p> <p>【指標2：定量 評価目標】</p> <p>国際関係ボランティア活動数</p> <p>○目標値 延べ7,000人（令和2年度 1,239人）</p> <p>○実績値 令和4年度 906人</p> |

【指標3：定性 評価目標】

日本語学習者の 満足度

○目標値 過半数が満足している（前年度 約60%）

○実績値 令和4年度 約70%

【検証方法】

日本語学習者へのアンケート調査で約70%の学習者が地域日本語教室活動内容に満足している。

【その他】

2. その他、令和4年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組②—1】 総括コーディネーターの配置

（定量評価）

熊本にほんご教育プラザで受けた日本語関係相談件数

今年度目標 70 件（前年度実績-） 令和4年度相談件数 278 件

（定性評価）相談内容の分析相談内容の分析

相談件数では日本語学習方法や地域日本語教室情報関連の問合せが一番多く、75%程度を占めた。

在留資格別では技能実習、技術・人文知識・国際業務、特定技能などの就労関係が70%程度、留学生在が25%程度であった。令和4年10月に入国制限が緩和されて以降、日本語学習等に関する問い合わせも増加した。

ホームページ・SNS等でも日本語学習情報を積極的に発信した為、熊本市外からの問合せも増加した。

【取組④】 市区町村への意識啓発のための取組市区町村への意識啓発のための取組

（定量評価）地域向けやさしい日本語研修の地域向けやさしい日本語研修の参加者参加者

今年度目標年度目標 40 人

令和4年度参加者数 7 人

本年度初めて校区自治会長、民生委員等を対象に「やさしい日本語」を開催したが、参加者数は目標数に届かなかった。しかし受講した方々からは外国人向け防災訓練等での活用も検討できるとの意見や、次年度も継続して「やさしい日本語」講座を開催したいとの意見があり、好評であった。

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

（1）検証を踏まえた課題

令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響は減少し、日本語教育事業への参加者数は増加に転じている。令和3年度に開設した熊本にほんご教育プラザを中心に熊本市内に限らず、熊本県内外の日本語教育情報収集配信、大学等教育機関との連携強化に努め、日本語教育に関する相談件数は大幅に増加した。

今後、TSMC の熊本進出や入国制限の緩和による更なる新規入国者の増加が見込まれる。それに伴い外国

人住民の在留資格も多様化し、日本語学習ニーズもさらに多様化すると思われる。

また外国人住民を受け入れる地域や外国人材受入れ企業等への「やさしい日本語」活用の普及啓発を行い、日本人側が外国人住民へ歩みよる必要性もあると考える。

(2) 今後の展望

本年度に実施した中間振り返りにより課題として、大きくは下記の4点があげられる。

1. 多様化する日本語学習ニーズへの対応

在熊外国人住民の国籍・在留資格も多様化し、日本語学習ニーズも多様化している。

地域日本語教室も市内全区に開設したが、区域が広い、外国人住民のニーズの把握が散住しており、新たに新規地域日本語教室の開設や、Zoom等を活用したオンラインにほんご教室の拡充、独学できるオンデマンド教材情報等の情報収集・配信強化も必要と考える。また日本語教育専門家による積み上げ式日本語教室の充実等の検討が必要と考える。

2. 大学等教育機関、日本語教育専門家、NPO、外国人材受入企業、行政との連携強化

地域における日本語教育支援人材確保や、地域における日本語教育の充実、更なる日本語教育機会の提供の為に様々な団体等との連携強化が有効である。地域日本語教室運営維持にはボランティアや学生など日本語教育支援に関わる人材確保と育成が必要と考える。

3. 地域住民・外国人材受入企業向け「やさしい日本語」の普及啓発

校区自治会、中小企業連合会、熊本商工会議所、各区街づくりセンター等と連携し、地域住民・外国人材受入企業向けに「やさしい日本語」講座等を開催し、「やさしい日本語」を活用しコミュニケーションスキルの向上を図る必要がある。

4. 外国ルーツの子ども達のサポート体制強化

現在、外国ルーツの子ども達の居場所作りとして就学前児童向けに「おるがったキッズ」、小中学生向けに「おるがったステーション」をNPO法人外国から来た子ども支援ネット、熊本県立大学秋葉研究室と協力し開催しているが、参加を希望する生徒の増加、協力して頂いているボランティアの高齢化等もあり、日本語教育支援に関わる人材の確保・拡大の為に熊本大学教育学部等との連携し、外国ルーツの子ども達のサポート体制強化の取組が必要と考える。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

・多様な外国人の日本語学習ニーズに対応するため、熊本にほんご教育プラザでの日本語学習情報等の収集、配信に努めた。

・熊本にほんご教育プラザで丁寧な相談対応に努め、相談者個人に合った学習方法や日本語教室等を提案した。

・遠隔地に住む外国人住民向けに、熊本県内の地域日本語教室や日本語学校の情報提供、オンラインおしゃべり会、個人学習ができるインターネット等学習情報提供に努め、ホームページやSNS等で周知した。

・日本語教育分野で学ぶ大学生に実践の場の提供として、インターン受入れを行った。またオンラインおしゃべり会や地域日本語教室等活動内容を大学へ出向き紹介し、幅広い年齢層のボランティア確保に努めた。

【参考写真一覧】

| 取組番号 | 写真名 |
|---|-----------------------|
| 取組⑥-8 | オンラインおしゃべり会 |
|  | |
| 取組⑤ | 生活日本語支援ボランティアスキルアップ研修 |



取組⑥-1

はじめてのにほんご



取組⑤

全教室合同生活日本語支援ボランティア研修会



【参考資料一覧】

| 取組番号 | 資料名 | NEWS 掲載 |
|------|-----|---------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |